

「ペトロ、福音を語る 2」

2016年05月16日

使徒言行録 10 章 39 節～43 節。わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなされたことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しを受けられる、と証ししています。」

ペトロは百人隊長コルネリウス邸に集まった人々に主イエスの福音を語った。上記の説教は、その後半の部分である。ペトロは「わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなされたことすべての証人です」と続けている。「ユダヤ人の住む地方」とはガリラヤとユダヤ地方であろう。ガリラヤにおいて、主イエスは生きる希望を奪われた人々に対し、「神の国」の恵みのリアリティを現し、生きることに向かって立ち上がらせた。神が聖霊と力を与え、神がご一緒であったからである。私たちは、この喜ばしい出来事を見て来た。そして特に、エルサレムで起こったことの全てを見た証人であると、十字架と復活について、語り進めている。「人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。」エルサレム神殿の祭司長、律法学者、長老たちは、自らの安泰を計るために、主イエスを冒瀆罪で葬り去ろうとした。彼らは罪状を切り替え、主イエスは「ユダヤ人の王」と称し、ローマに反逆する者であると、ローマの総督ピラトに死刑を求めた。群衆も神殿当局に扇動され、声高に、ピラトに十字架刑を要求した。これらの人々によって、主イエスは木（十字架）にかけられ、残虐に殺された。ところが神は、この主イエスを三日目に復活させた。死から命へと甦らせ、キリスト（救い主）であることを示された。そして、復活した主イエスを人々の前に現してくださいました。復活した主イエスは「民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです」と語っている。選ばれた私たちに現われ、御一緒に食事もした。ペトロは食事もしたと、復活の事実が確かであることを訴えている。「そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。」ヨハネ福音書 5 章 27 節には「裁きを行う権能を子（主イエス）にお与えになった」と書かれている。また、マタイ福音書 28 章 19 節では、「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」と宣教を命じられた。このエルサレムで起こった主イエスの十字架と復活を信じる者は誰でも、罪の赦しを受けられると、預言者も皆、証している。旧約聖書の預言の成就で、確かな救いの出来事であると重ねて語っている。

ペトロの説教は初代教会のキリスト論に集中した宣教（ケリュグマ）であるが、「すべての人の主」が力説され、民族の壁を乗り越えた新しい時代の到来を告げる説教である。